

市民及び中学生・高校生意識調査

報 告 書

(概要版)

平成21年3月

焼 津 市

目 次

I. 調査の概要	
1. 調査の目的	2
2. 調査概要	2
II. 回答者の属性	
1. 中学生・高校生	2
2. 市民	3
III. まちの現状	
1. 住みやすさ(暮らしやすさ)	4
2. 身近な生活環境の感じ方	6
3. 行政施策全般の満足度	8
4. 個別施策の満足度	9
IV. まちづくり活動への参加	
1. まちづくり活動への参加状況	13
2. 協働についての認知度及び重要度	15
3. 各種活動への市民の関わり方	16
V. まちの将来、今後のまちづくり	
1. 今後の居留意向	17
2. 新市の将来像	19
3. 重要だと思うまちづくり	20
4. 今後残してほしいところ、変えてほしいところ	21
VI. 今後の土地利用	
1. 今後の土地利用の重点	22

I. 調査の概要

1. 調査の目的

合併後の新しいまちづくりの指針となる「第5次焼津市総合計画」及び「第3次焼津市国土利用計画」の策定にあたり、市の現状や今後のまちづくりについて市民の意識や考え方を把握し、計画策定の基礎資料として活用することを目的として、「中学生・高校生」及び「市民」を対象に意識調査を実施しました。

2. 調査概要

①中学生・高校生意識調査

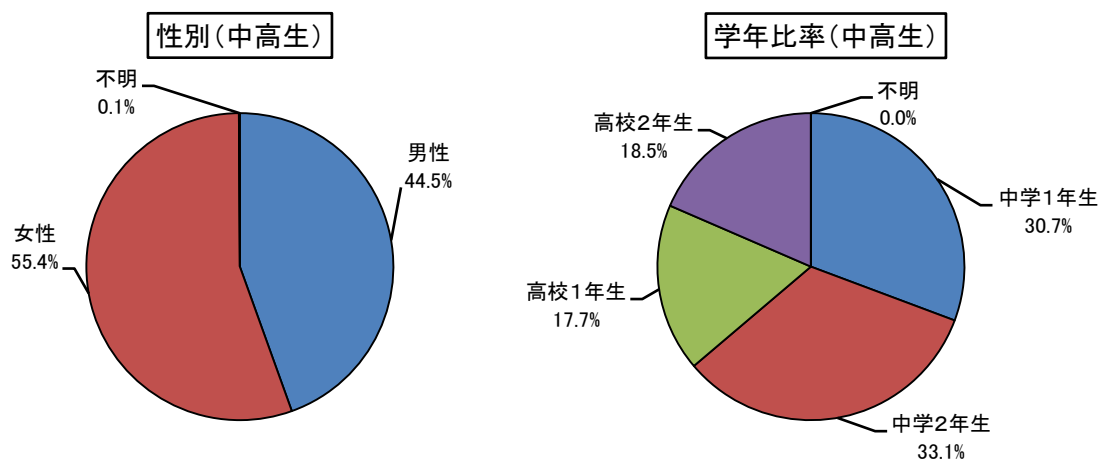
対 象	中学生	1、2年生(市内全 9 校)	553 人
	高校生	1、2年生(市内全 4 校)	313 人
	計	1、2年生(市内全 13 校)	866 人
調査期間	中学生	平成 21 年 3 月 2 日(月)～3 月 13 日(金)	
	高校生	平成 21 年 3 月 9 日(月)～3 月 19 日(木)	
調査方法	各学校の各学年から 1 クラスを抽出し、学校を通じて配票、回収		
回収結果	866 人(100%)		

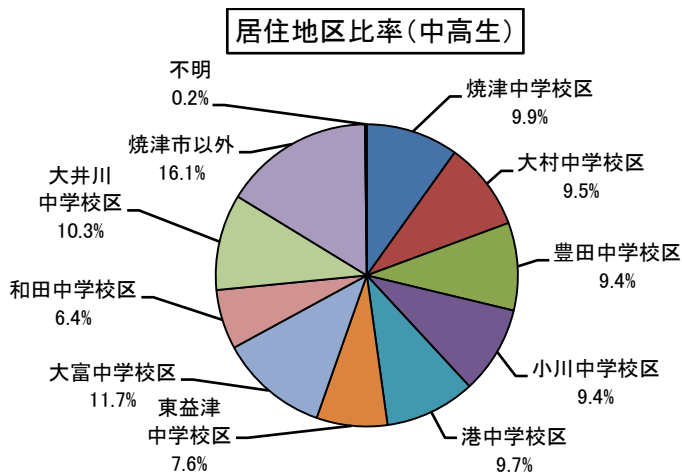
②市民意識調査

対 象	市内に在住する 18 歳以上の男女 3, 000 人
抽出方法	無作為抽出
調査期間	平成 21 年 3 月 5 日(木)～ 3 月 19 日(木)
調査方法	郵送による配票、回収
回収結果	1,660 人(55.3%)

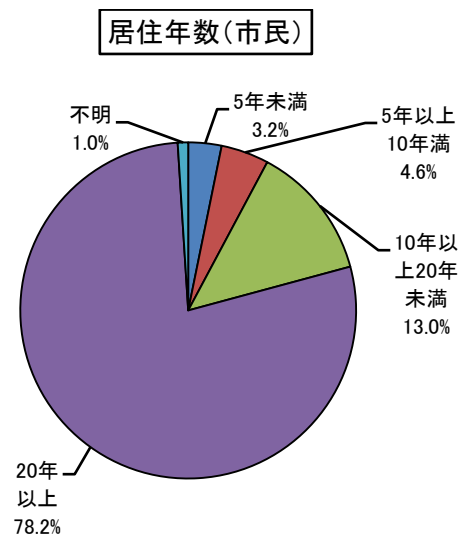
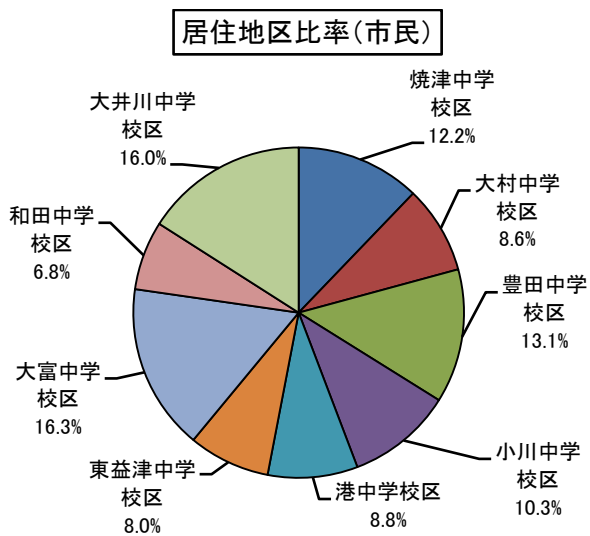
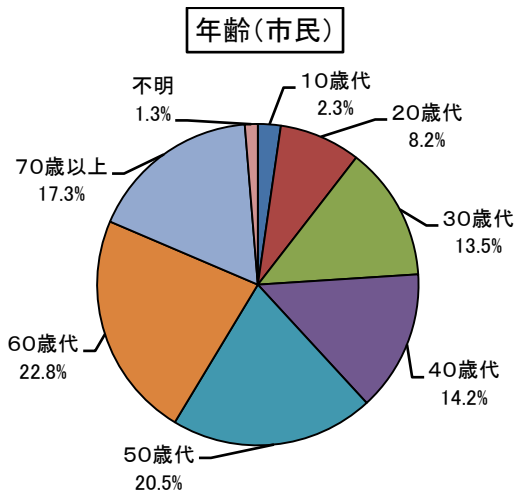
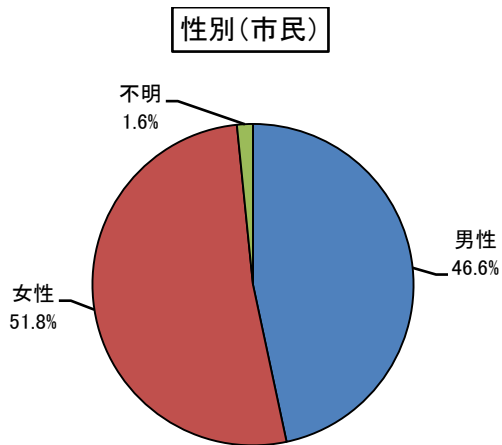
II. 回答者の属性

1. 中学生・高校生(N=866)





2. 市民(N=1,660)

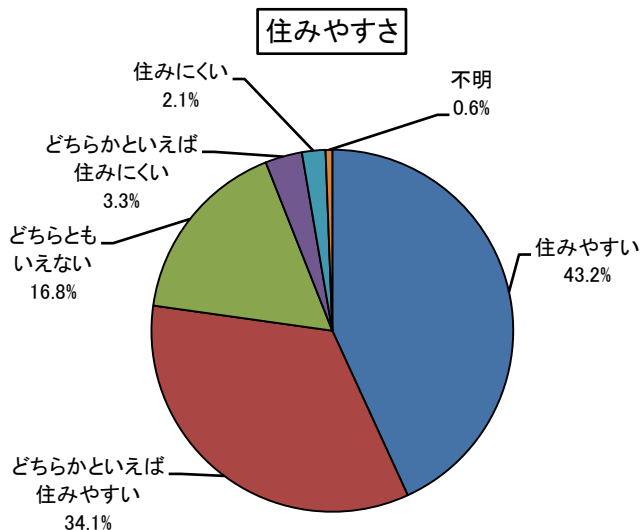


Ⅲ. まちの現状

1. 住みやすさ(暮らしやすさ)

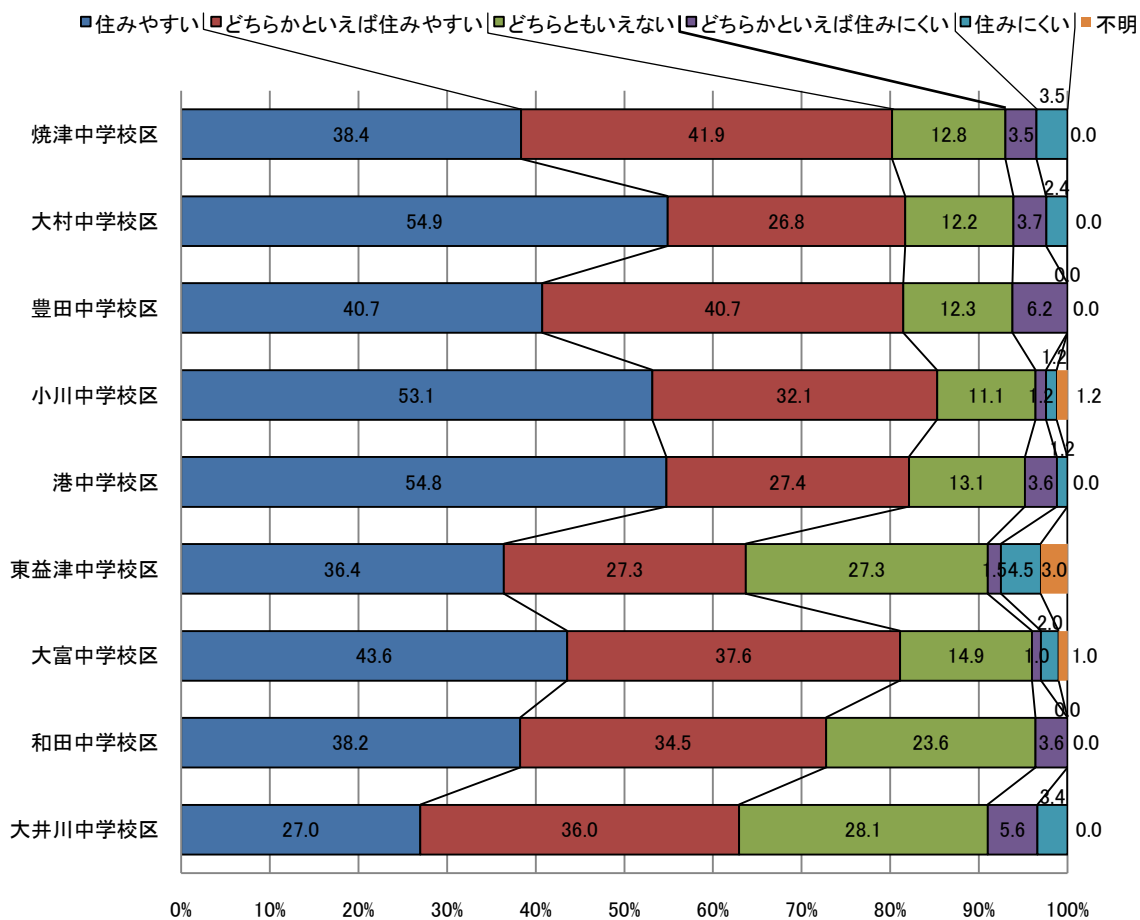
①中学生・高校生(市内在住N=725)

市内在住の中学生・高校生の約8割が、住みやすいと感じています。



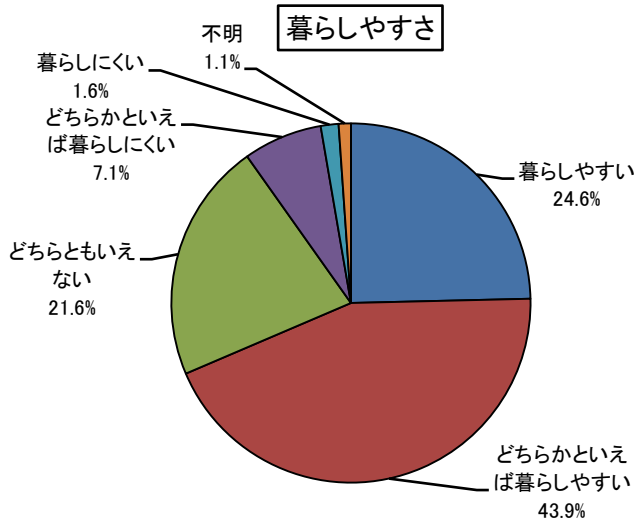
「焼津市は住みやすいところですか」の設問に、住みやすい(住みやすい、どちらかといえば住みやすいの合計)と回答した方は 77.3%で、住みにくい(住みにくい、どちらかといえば住みにくい)の合計)と回答した方は、5.4%でした。

また、居住地区別の住みやすいと回答した割合は、小川中学校区(85.2%)が高く、大井川中学校区(63.7%)が低い割合となりました。



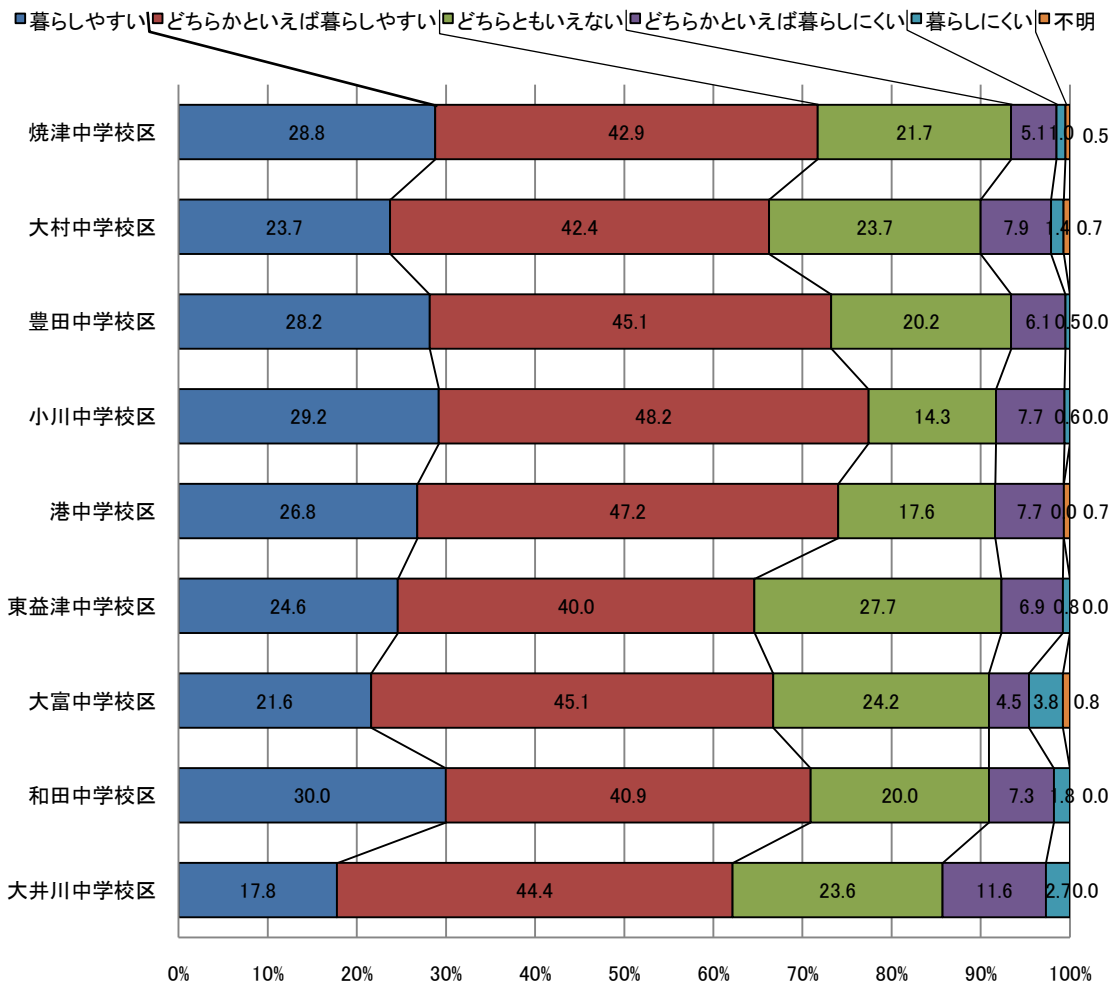
②市 民(N=1,660)

市民の約7割が、暮らしやすいと感じています。



「焼津市は暮らしやすいところですか」の設問に、暮らしやすい(暮らしやすい、どちらかといえば暮らしやすいの合計)と回答した方は 68.5%で、暮らしにくい(暮らしにくい、どちらかといえば暮らしにくい)の合計)と回答した方は、8.7%でした。

また、居住地区別の暮らしやすいと回答した割合は、小川中学校区(77.4%)が高く、大井川中学校区(62.2%)が低い割合となりました。

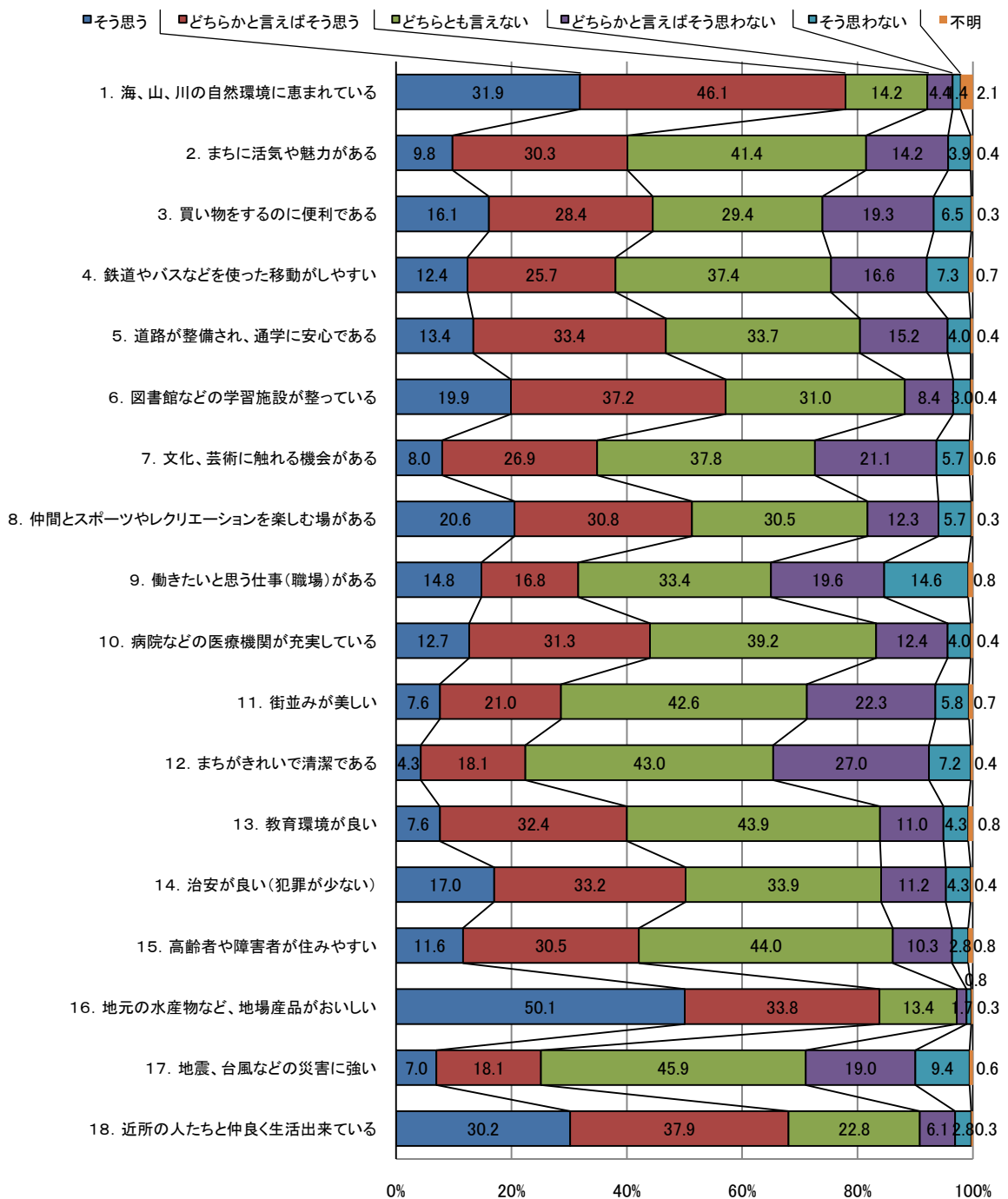


2. 身近な生活環境の感じ方

①中学生・高校生(市内在住N=725)

「身近な生活環境についてどのように思いますか」の設問に対し、

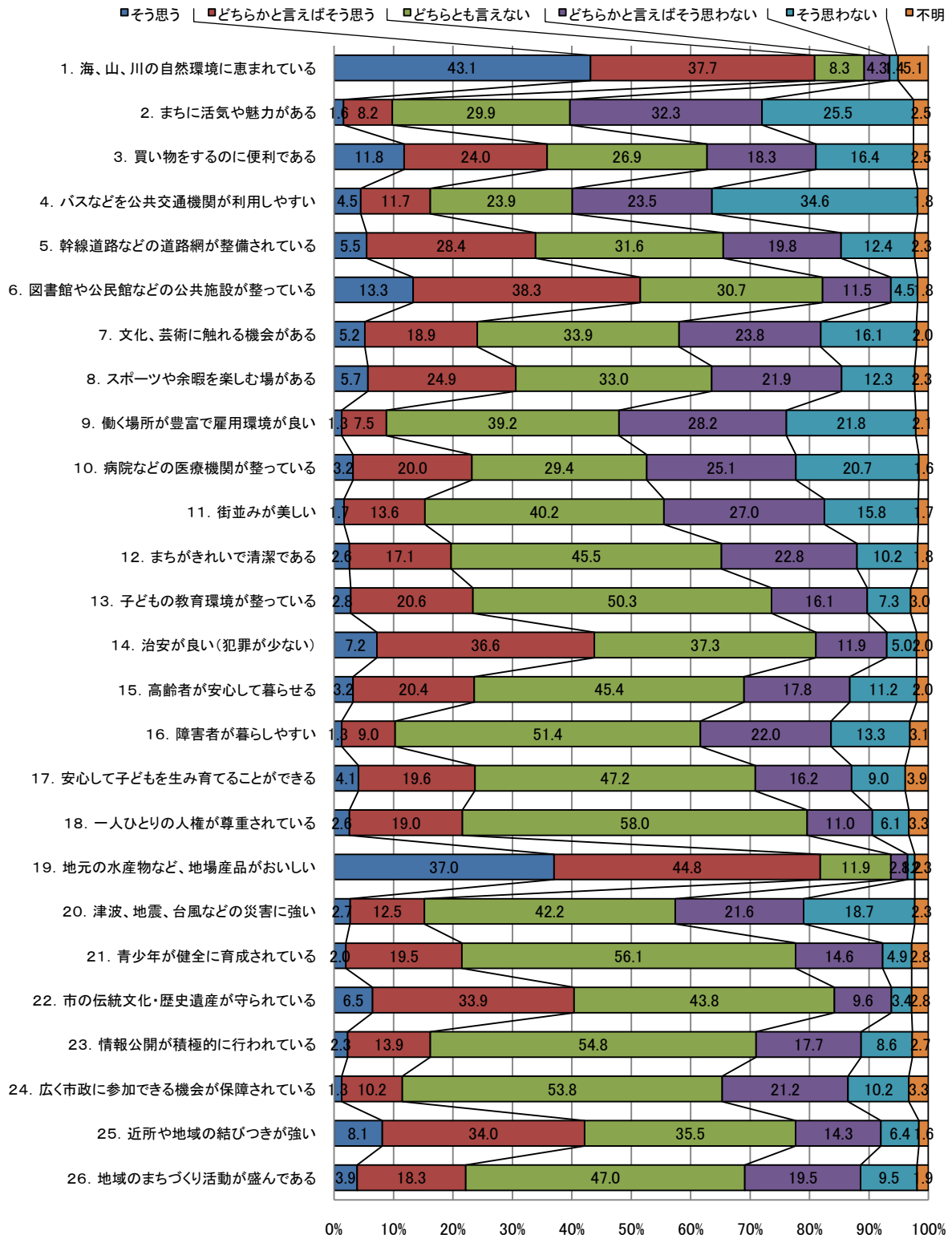
市内在住の中学生・高校生の約8割が、「地元の水産物など、地場産品がおいしい」、「海、山、川の自然環境に恵まれている」と感じています。一方で、「まちがきれいで清潔である」、「地震、台風などの災害に強い」、「街並みが美しい」と感じる生徒は3割以下でした。



②市民(N=1,660)

「市の現状について、日頃どのように感じていますか」の設問に対し、

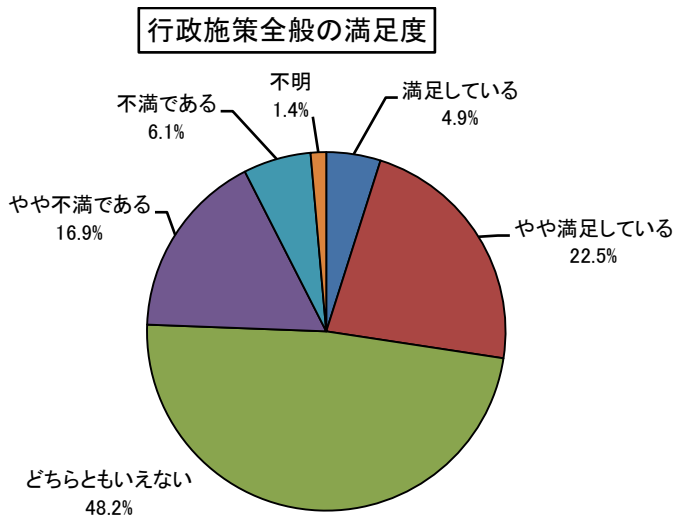
市民の約8割が、「地元の水産物など、地場産品がおいしい」、「海、山、川の自然環境に恵まれている」と感じています。一方で、「働く場所が豊富で雇用環境が良い」、「まちに活気や魅力がある」、「障害者が暮らしやすい」、「広く市政に参加できる機会が保障されている」と感じる市民は約1割でした。



3. 行政施策全般の満足度

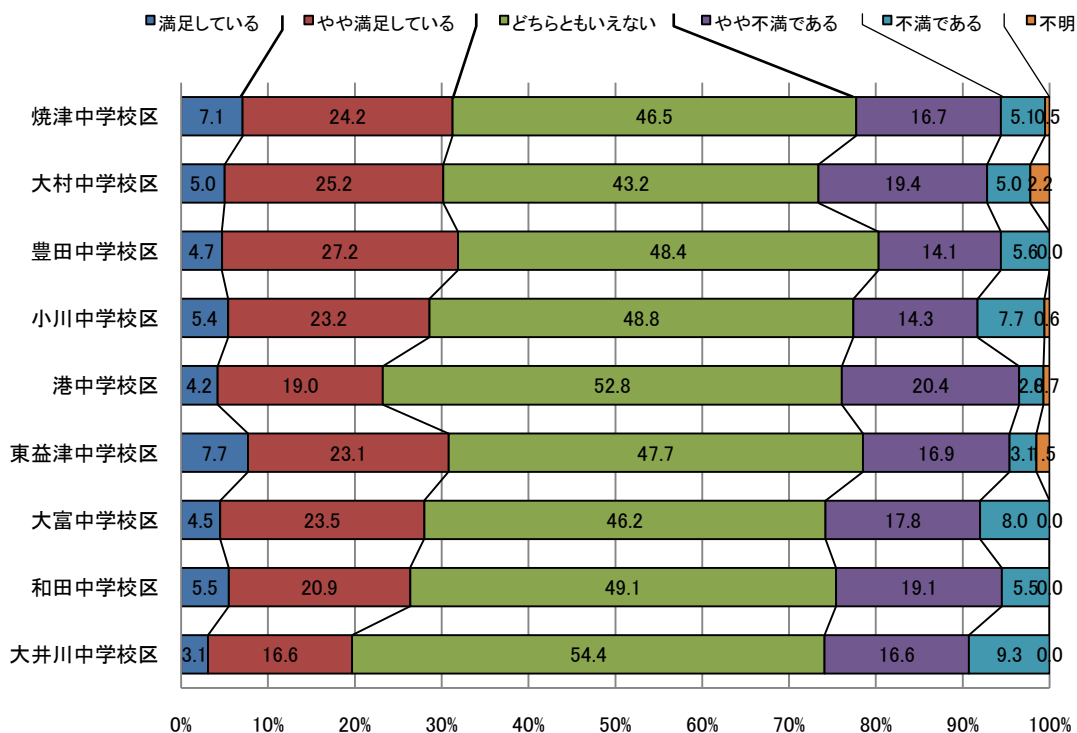
市 民(N=1,660)

市民の約3割が行政施策全般に満足しています。



「焼津市の行政施策全般についてどの程度満足していますか」の設問に満足している(満足している、やや満足している)と回答した方は27.4%で、不満である(やや不満である、不満である)と回答した方は、23.0%でした。

また、居住地区別の満足しているの回答割合は、豊田中学校区(31.9%)、焼津中学校区(31.3%)が高く、大井川中学校区(19.7%)が低い割合となりました。



4. 個別施策の満足度

ほぼ全施策について、平成18年1月実施の調査結果よりも、満足度が下がっています。

「焼津市(旧焼津市、旧大井川町)の取り組みについて、現状どの程度満足しているか」の設問に対し、旧焼津市において平成18年1月に実施した「市民満足度調査」の結果と比較すると、「安全な水道水の安定供給」を除く全ての施策について満足度が下がりました。

特に下がった施策の上位5つは、「新規産業の育成(先端技術開発機能の強化、地域資源の有効活用、起業支援体制の充実)」が-1.47点、「高齢者への生活支援の充実(生活支援の推進)」が-1.28点、「高齢者の社会参加と自立の促進(高齢者福祉体制の充実、生きがい対策の推進、高齢者保護の充実)」が-1.28点、「情報共有化の推進(情報提供と公開の充実、地域情報化の推進)」が-1.26点、「充実した医療サービスの提供(地域医療体制の充実、焼津市立総合病院の充実)」が-1.24点でした。

※尚、満足度の点数は、満足:5点、やや満足:4点、やや不満:2点、不満:1点とし、その平均として算出しています。

	施策名	21年 満足度 (全市)	21年 満足度 (旧焼津)	18年 満足度	21年(旧焼津) と18年の差
教育文化分野	1 豊かな感性を育む幼児教育の推進(家庭の教育力の向上、幼児教育の充実)	2.76	2.74	3.32	-0.58
	2 個性を伸ばす学校教育の推進(教育内容の充実、指導の充実、教育環境の充実)	2.70	2.68	3.16	-0.48
	3 次世代を担う青少年の健全育成(青少年活動の促進、学習・交流の場の提供、健全育成体制の充実)	2.59	2.59	3.58	-0.99
	4 活力あるコミュニティ活動の振興(地域の連帯感の高揚、地域づくりの推進)	2.90	2.95	3.44	-0.49
	5 誰もが学べる環境の整備(生涯学習の推進、学習機会と場の提供、図書館活動の充実)	3.04	3.04	3.55	-0.51
	6 心身の健康を保つ活動の推進(スポーツ・レクリエーション活動の促進、スポーツ・レクリエーション施設の充実)	2.88	2.91	3.50	-0.59
	7 芸術文化の振興(芸術文化活動の振興、文化施設の拡充)	2.95	2.96	3.38	-0.42
	8 文化遺産の保護と活用(文化遺産の保護と活用)	3.02	3.03	3.55	-0.52

	施策名	21年 満足度 (全市)	21年 満足度 (旧焼津)	18年 満足度	21年(旧焼津) と18年の差
福祉保健分野	9 健康づくりの推進(健康地域づくりの推進、健康診査体制の充実)	3.16	3.16	3.70	-0.54
	10 充実した医療サービスの提供(地域医療体制の充実、焼津市立総合病院の充実)	2.01	2.00	3.24	-1.24
	11 地域で育む福祉の充実(地域福祉推進体制の整備、福祉への理解と協力の促進)	2.37	2.39	3.41	-1.02
	12 保険・年金制度の充実(介護保険制度の円滑な推進、国民健康保険及び老人保険制度の健全運営、国民年金制度の推進)	2.14	2.16	2.96	-0.80
	13 生活援護の充実(母子・父子家庭への援護、低所得者援護の充実)	2.34	2.34	3.28	-0.94
	14 高齢者の社会参加と自立の促進(高齢者福祉体制の充実、生きがい対策の推進、高齢者保護の充実)	2.37	2.38	3.66	-1.28
	15 高齢者への生活支援の充実(生活支援の推進)	2.23	2.25	3.53	-1.28
	16 児童の健やかな成長支援(児童の健全育成)	2.72	2.71	3.38	-0.67
	17 子育て支援の充実(子育て環境の整備、保育内容の充実、母子・父子保健の充実)	2.49	2.49	3.34	-0.85
	18 障害者(児)の社会参加と自立の促進(障害者福祉体制の整備、精神保健福祉の充実)	2.40	2.40	3.46	-1.06
	19 障害者への生活支援の充実(在宅介護支援の充実、生活支援の推進)	2.40	2.41	3.54	-1.13
生活環境分野	20 地球規模での環境保全(環境教育・環境学習の実践、地球温暖化防止の推進、自然環境の保全)	2.44	2.44	3.16	-0.72
	21 ごみの減量化と資源化の推進(ごみの減量化・資源化の推進、ごみ処理体制の充実)	3.08	3.12	3.83	-0.71
	22 水環境の保全(公共下水道事業の推進、生活排水対策の推進、雨水の有効利用)	2.82	2.85	3.51	-0.66
	23 環境衛生の推進(環境美化の推進、し尿等環境衛生対策の推進)	3.02	3.04	3.27	-0.23
	24 環境汚染防止のための監視、指導の強化(環境監視・指導体制の充実、環境汚染防止の徹底)	2.55	2.57	3.40	-0.83
	25 安全な水道水の安定供給(水道水の安定供給体制の充実、水道施設の整備)	3.77	3.81	3.79	0.02
	26 災害に備えた体制の充実(防災体制の強化、防災意識の高揚、防災設備・施設の充実)	3.03	3.08	3.63	-0.55
	27 消防・救急体制の充実(消防体制の強化、火災予防の徹底、消防団活動の充実、救急体制の強化)	3.42	3.43	3.83	-0.40
	28 消費者への正しい知識の普及(消費者意識の啓発、消費者保護活動の推進)	2.61	2.64	3.26	-0.62
	29 犯罪の未然防止(防犯活動の推進、防犯施設の整備)	2.63	2.66	3.19	-0.53

	施策名	21年 満足度 (全市)	21年 満足度 (旧焼津)	18年 満足度	21年(旧焼津) と18年の差
産業振興分野	30 水産業の振興(生産基盤の強化、水産物流通拠点の形成、水産加工業の振興、開かれた漁港としての利用促進)	2.84	2.81	3.29	-0.48
	31 工業の振興(技術革新と販売促進の支援、企業誘致と産業集約化の促進)	2.38	2.35	3.11	-0.76
	32 商業の振興(魅力ある商業の創出、賑わいのある商店街づくり)	1.86	1.83	2.55	-0.72
	33 観光の振興(地域観光資源を活かした観光の振興、観光拠点・施設の充実、温泉施設の有効活用)	2.11	2.10	2.92	-0.82
	34 農業の振興(農業経営基盤の強化、生産流通販売体制の強化、農業生産基盤の整備、山あい集落環境の向上)	2.22	2.18	2.95	-0.77
	35 港湾の振興(港湾の振興、親しみのある港湾の利活用)	2.41	2.37	-	-
	36 中小企業の支援(経営基盤の強化)	2.08	2.05	2.90	-0.85
	37 新規産業の育成(先端技術開発機能の強化、地域資源の有効活用、起業支援体制の充実)	2.09	2.05	3.52	-1.47
	38 就業対策の推進(就業の促進、労働環境の向上)	1.98	1.96	2.99	-1.03
	39 勤労者福祉の増進(福利厚生の実施)	2.11	2.10	3.14	-1.04
都市整備分野	40 良好な生活を生み出す交通ネットワークの充実(幹線道路の整備、生活道路の整備、公共交通機関の充実)	2.47	2.53	3.35	-0.82
	41 人と環境に配慮した交通対策の推進(人が優先のみちづくり、環境に配慮した交通体系の整備)	2.39	2.41	3.10	-0.69
	42 交通安全意識の高揚と交通事故のないまちづくり(交通安全施設の整備、交通安全教育の推進)	2.67	2.70	3.26	-0.56
	43 良好な市街地の形成(ゆとりある住宅地の形成、密集住宅地の整備促進)	2.46	2.46	3.23	-0.77
	44 安全で住みやすい居住区間の実現(よりよい住まいづくりの推進、安全な住まいづくりのための相談・指導)	2.57	2.60	3.12	-0.52
	45 魅力ある都市景観づくり(魅力ある景観の保全、魅力ある都市景観の創出、美しいまちなみの誘導)	2.31	2.30	3.00	-0.70
	46 計画的な土地利用の推進(環境と調和した土地利用の推進)	2.16	2.16	2.80	-0.64
	47 親しみもてる公園づくり(身近な公園の整備、特色ある公園の整備、公園の管理・運営体制の充実)	2.63	2.65	2.86	-0.21
	48 緑豊かな都市環境の形成(緑の保全・活用、緑の創造、緑化活動の促進)	2.61	2.63	3.26	-0.63
	49 安全でうるおいのある川づくり(河川の整備、うるおいのある河川環境の整備)	2.53	2.52	3.07	-0.55
	50 災害に強いまちづくり(地震対策の推進、治山・治水対策の推進、海岸保全対策の促進)	2.50	2.55	3.08	-0.53

	施策名	21年 満足度 (全市)	21年 満足度 (旧焼津)	18年 満足度	21年(旧焼津) と18年の差
行 財 政 分 野	51 市民参画の推進(市民の声を活かしたまちづくり、協働体制の構築)	2.23	2.22	3.08	-0.86
	52 情報共有化の推進(情報提供と公開の充実、地域情報化の推進)	2.41	2.44	3.70	-1.26
	53 効果的な行政運営の展開(事務改善の推進、行政組織の効率化)	2.14	2.18	3.08	-0.90
	54 健全な行財政運営の推進(効率のよい財政運営の推進)	2.09	2.12	3.02	-0.90
	55 広域行政の推進(広域連携の強化)	2.50	2.54	2.94	-0.40
	56 市民がまちづくりへの責任と自覚を高める(市民と行政が役割分担をして共にまちづくりを進める)	2.46	2.47	3.05	-0.58
	57 男女共同参画社会の形成(男女共同参画事業の促進、男女共同参画に対応した環境づくり)	2.54	2.55	3.31	-0.76
	58 ユニバーサルデザインの推進(ユニバーサルデザイン意識の普及、ユニバーサルデザインのまちづくり)	2.31	2.32	3.20	-0.88
	59 国際化への対応(国際化に対応したまちづくり)	2.17	2.18	3.38	-1.20
	60 核兵器廃絶と平和の希求(平和意識の普及と啓発)	3.14	3.19	3.86	-0.67

順位	施策名	満足度
1	25 安全な水道水の安定供給 (水道水の安定供給体制の充実、水道施設の整備)	3.77
2	27 消防・救急体制の充実 (消防体制の強化、火災予防の徹底、消防団活動の充実、救急体制の強化)	3.42
3	9 健康づくりの推進(健康地域づくりの推進、健康診査体制の充実)	3.16
4	60 核兵器廃絶と平和の希求(平和意識の普及と啓発)	3.14
5	21 ごみの減量化と資源化の推進 (ごみの減量化・資源化の推進、ごみ処理体制の充実)	3.08
6	5 誰もが学べる環境の整備 (生涯学習の推進、学習機会と場の提供、図書館活動の充実)	3.04
7	26 災害に備えた体制の充実 (防災体制の強化、防災意識の高揚、防災設備・施設の充実)	3.03
8	23 環境衛生の推進(環境美化の推進、し尿等環境衛生対策の推進)	3.02
9	8 文化遺産の保護と活用(文化遺産の保護と活用)	3.02
10	7 芸術文化の振興(芸術文化活動の振興、文化施設の拡充)	2.95

IV. まちづくり活動への参加

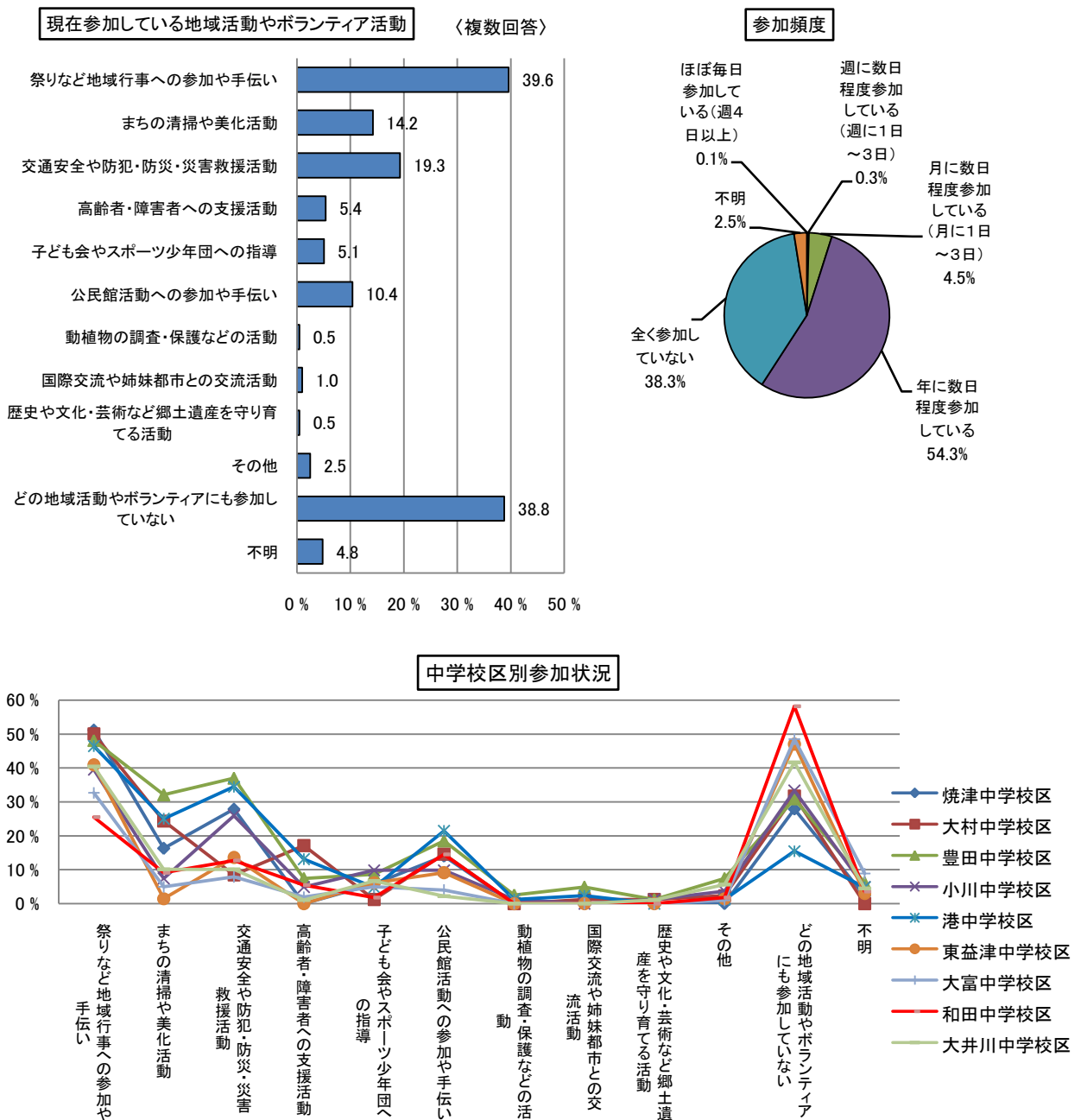
1. まちづくり活動への参加状況

①中学生・高校生(市内在住N=866)

中学生・高校生の約6割が地域活動やボランティア活動に年に数日程度参加しています。

「現在、どのような地域活動やボランティア活動に参加しているか」の設問に、祭りなど地域行事への参加や手伝いと回答した生徒が、39.6%と最も高く、全く参加していない生徒も38.8%でありました。

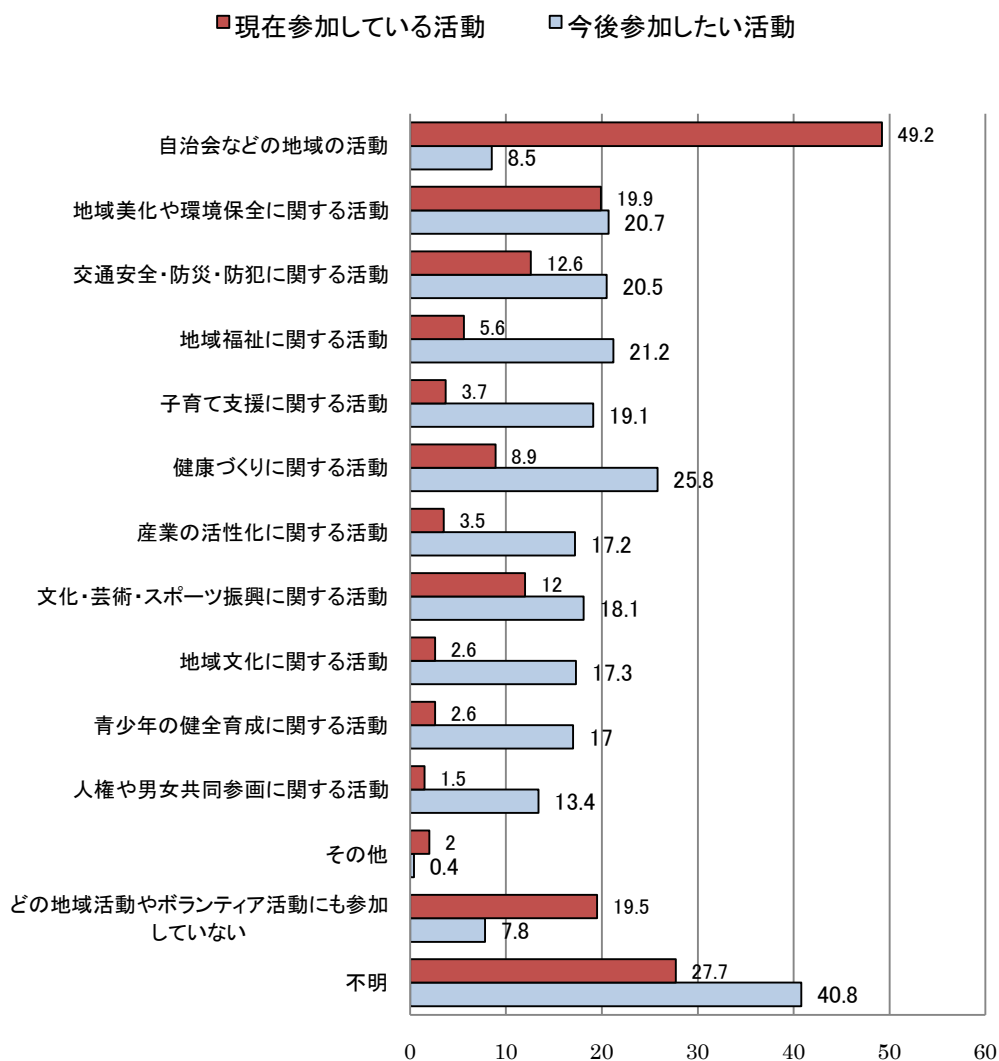
また、居住地区別では、何らかの地域活動やボランティア活動に参加している割合が、港中学校区が79.7%であるのに対し、和田中学校区では38.2%と差が見られます。



②市 民(N=1,660) <複数回答>

市民の約5割が地域活動やボランティア活動に参加し、今後は約4分の1の市民が健康づくりに関する活動に参加したと考えています。

「現在、どのような地域活動やボランティア活動に参加しているか」の設問に、自治会などの地域活動に参加する市民が 49.2%と最も多く、どの地域活動やボランティア活動にも参加していない 19.5%と不明の 27.7%を除く 52.8%の市民が何らかの活動に参加しています。



2. 協働についての認知度及び重要度

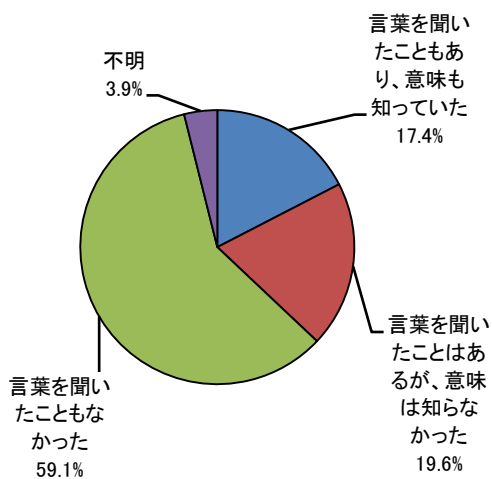
市 民(N=1,660)

市民の約6割が「協働」という言葉を聞いたことがないと回答していますが、7割以上の市民が「協働」を推進することは重要だと考えています。

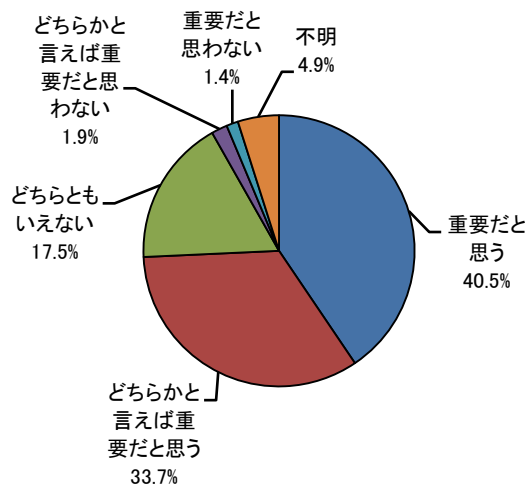
「協働という言葉をおもひに聞いたことがあるか」の設問に、聞いたこともなかったと回答した方は 59.1%でありました。

また、「協働を推進ことは重要だと思うか」の設問に、重要だと思う(重要だと思う、どちらかといえば重要だと思うの合計)と回答した方は 74.2%で、重要だと思わない(重要だと思わない、どちらかといえば重要だと思わないの合計)と回答した方は 3.3%でした。

協働についての認知度



協働を推進することの重要度



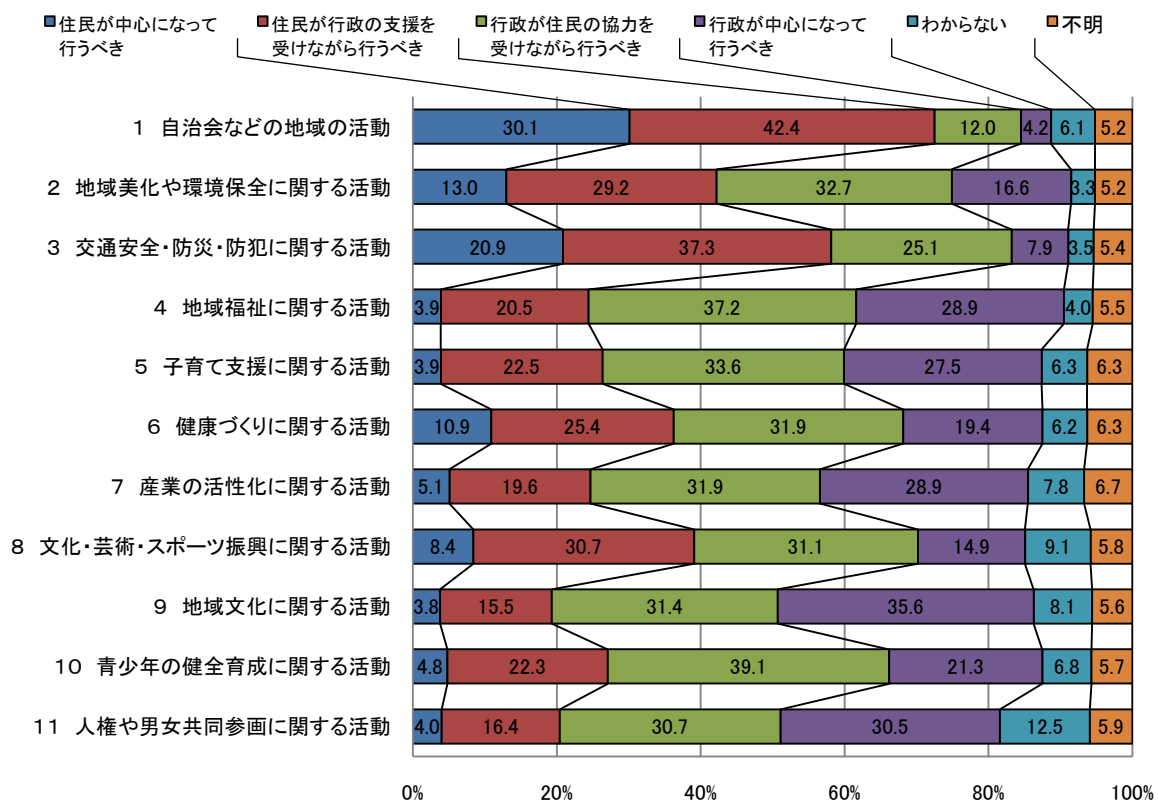
3. 各種活動への市民の関わり方

市民(N=1,660)

過半数の市民が、自治会などの地域の活動や交通安全・防災・防犯に関する活動は、住民が中心になって行うべき又は住民が行政の支援を受けながら行うべきと考えています。

「各種活動に住民がどのように関わるべきか」の設問に、住民が行うべき(住民が中心になって行うべき、住民が行政の支援を受けながら行うべきの合計)の割合は、自治会などの地域の活動では 72.5%、交通安全・防災・防犯に関する活動では 58.2%と高くなっています。

一方、地域文化に関する活動では 19.3%、人権や男女共同参画に関する活動では 20.4%と低くなっており、行政が行うべき(行政が中心となって行うべき、行政が住民の協力を受けながら行うべきの合計)の割合が高くなっています。

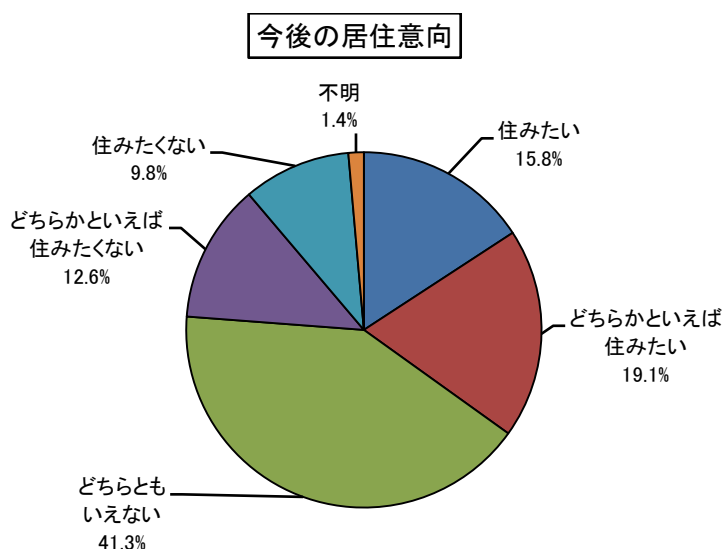


V. まちの将来、今後のまちづくり

1. 今後の居住意向

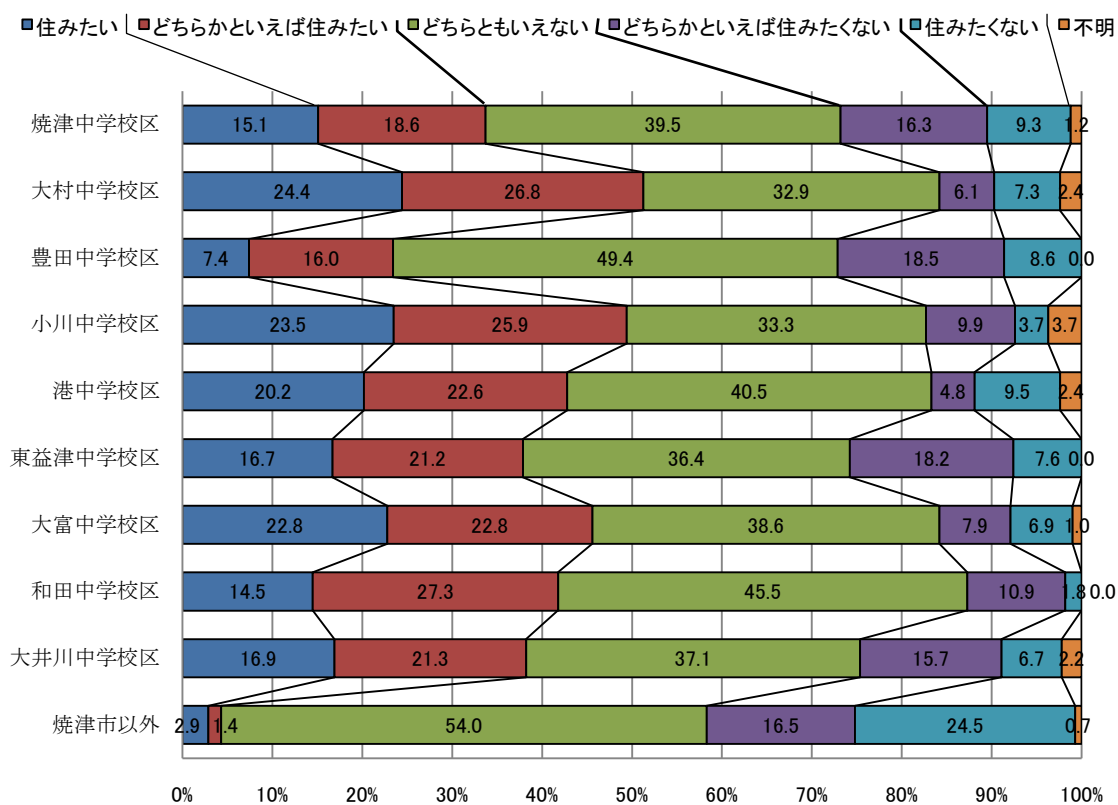
①中学生・高校生(N=866)

中学生・高校生の約3割が卒業・就職後に焼津市に住みたいと思っています。



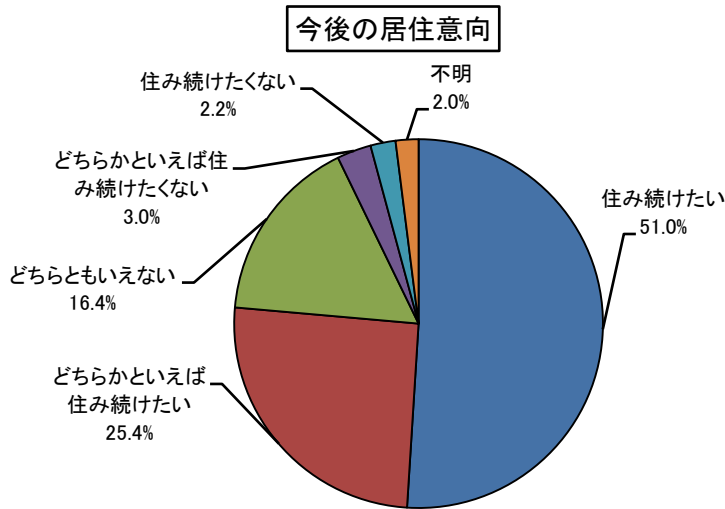
「卒業・就職後に焼津市に住みたいですか」の設問に、住みたい(住みたい、どちらかといえば住みたいの合計)と回答した方は 34.9%で、住みたくない(住みたくない、どちらかといえば住みたくない合計)と回答した方は、22.4%でした。

また、居住地区別の住みたいと回答した割合は、大村中学校区(51.2%)、小川中学校区(49.4%)が高く、豊田中学校区(23.4%)が低い割合となりました。



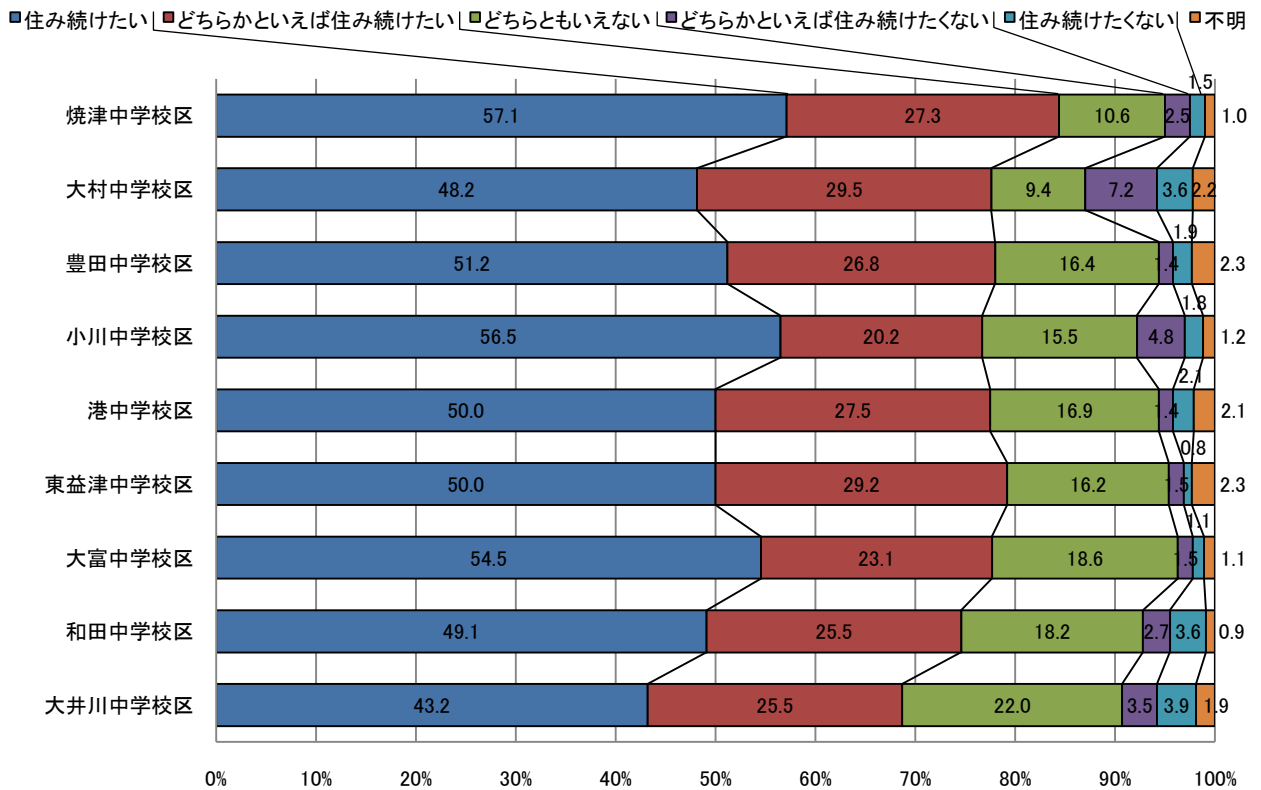
②市 民(N=1,660)

市民の約8割が今後も住み続けたいと思っています。



「今後も焼津市に住み続けたいですか」の設問に、住み続けたい(住み続けたい、どちらかといえば住み続けたいの合計)と回答した方は76.4%で、住み続けたくない(住み続けたくない、どちらかといえば住み続けたくない合計)と回答した方は、5.2%でした。

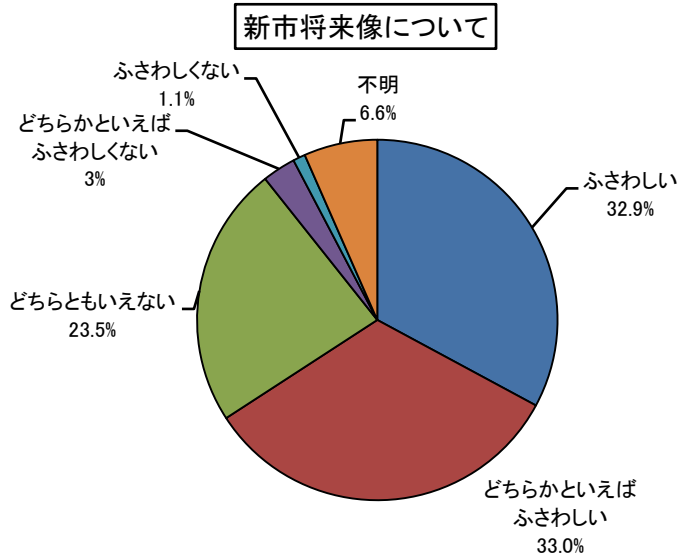
また、居住地区別の住み続けたいと回答した割合は、焼津中学校区(84.4%)が高く、低くても大井川中学校区(68.7%)と全体的に高い割合となりました



2. 新市の将来像

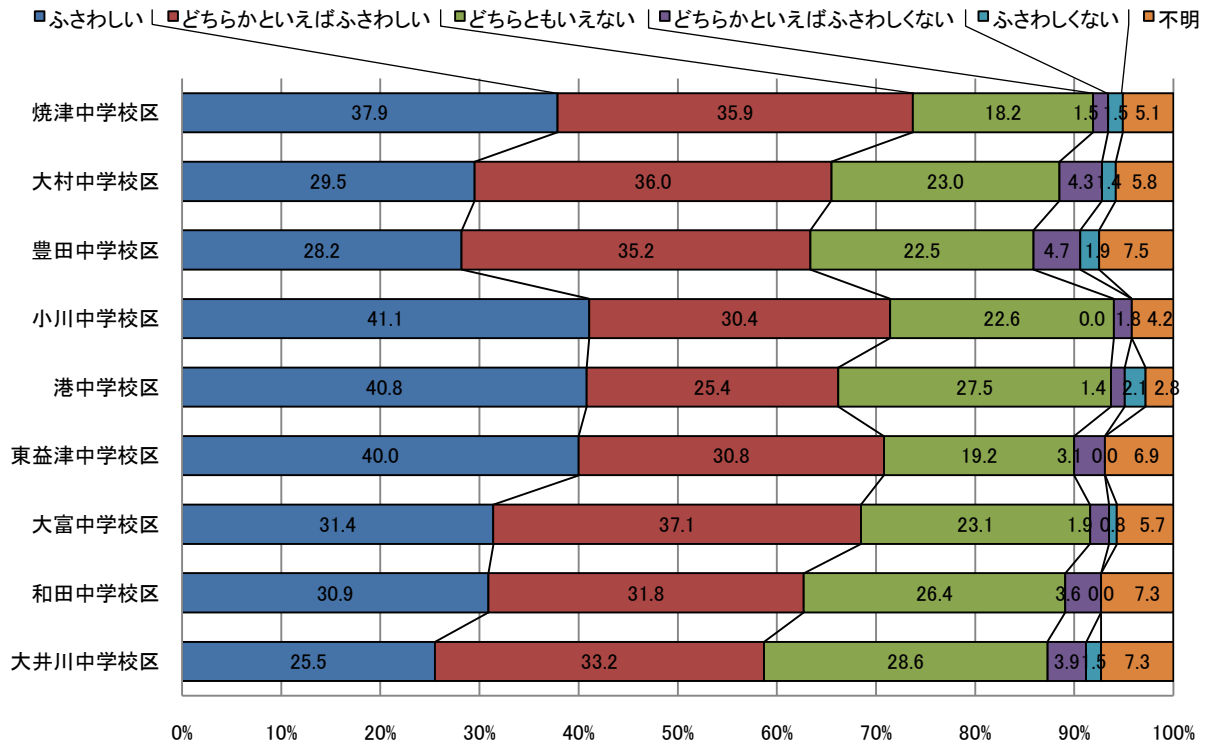
市民(N=1,660)

市民の6割以上が、『人が輝き 活気にあふれ 海・山・川の恵みと歩むまち 焼津』を新市の将来像として、ふさわしいと思っています。



「合併に際し策定した合併基本計画の中で掲げている『人が輝き 活気にあふれ 海・山・川の恵みと歩むまち 焼津』が新市の将来像としてふさわしいか」の設問に、ふさわしい(ふさわしい、どちらかといえばふさわしいの合計)と回答した方は、65.9%で、ふさわしくない(ふさわしくない、どちらかといえばふさわしくないの合計)と回答した方は、4.1%でした。

また、居住地区別のふさわしいと回答した割合は、焼津中学校区(73.8%)が最も高く、大井川中学校区(58.7%)が低い割合となりました。



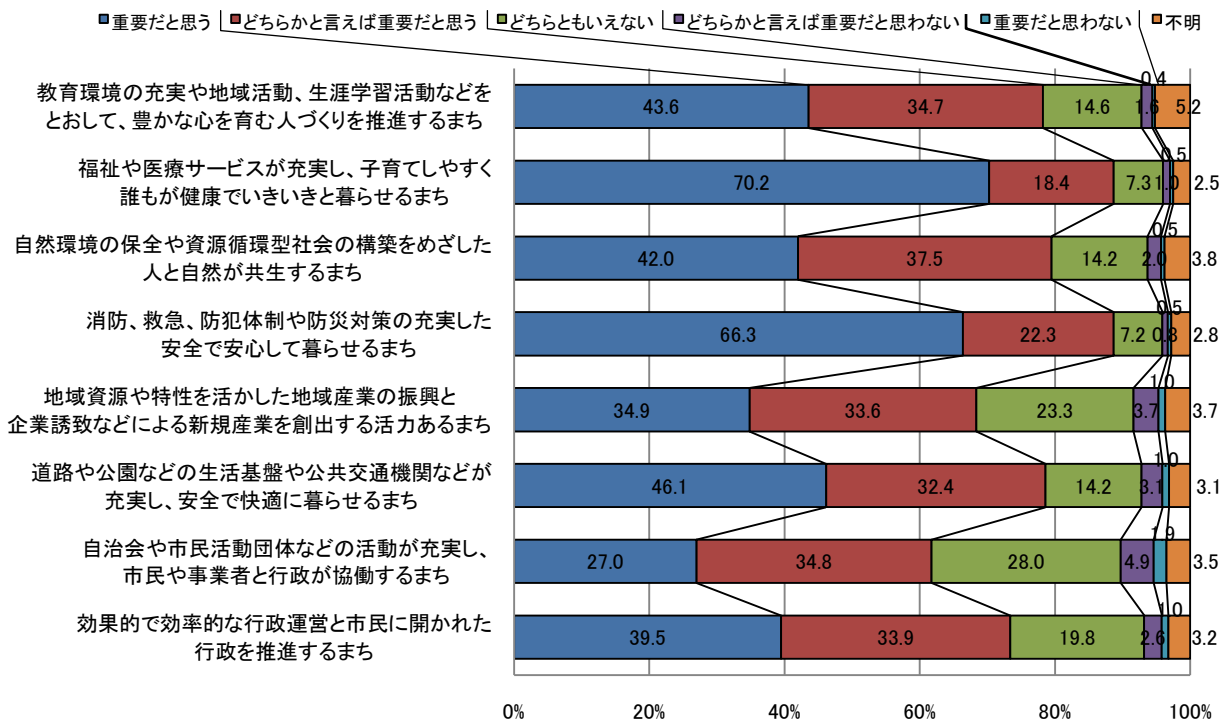
3. 重要だと思うまちづくり

市民(N=1,660)

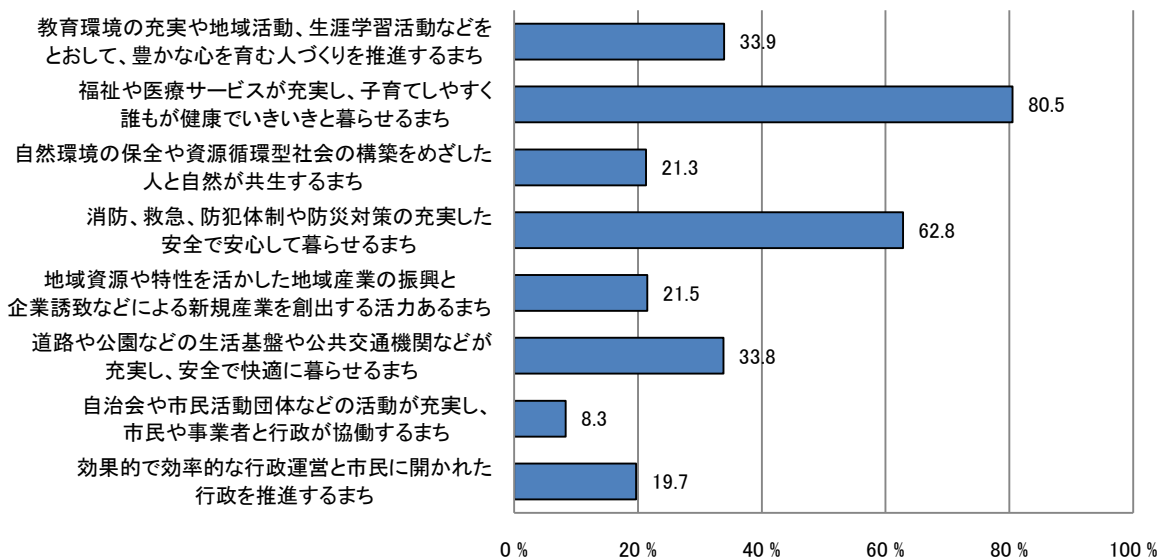
「これからのまちづくりにおいて、重要だと思うか」の設問に対し

いずれの項目も6割以上の市民が重要と考えていますが、中でも特に『福祉や医療サービスが充実し、子育てしやすく誰もが健康でいきいきと暮らせるまち』と『消防、救急、防犯体制や防災対策の充実した安全で安心して暮らせるまち』が重要とされています。

まちづくり項目の重要度



特に重要なまちづくり項目



4. 今後残してほしいところ、変えてほしいところ

将来にむけて、焼津市の「残してほしいところ(良いところ、好きなどころ)」「変えてほしいところ(悪いところ、嫌いなどころ)」についての自由意見のキーワードは下記のとおりでした。

① 残してほしいところ(良いところ、好きなどころ)のキーワード

順位	中学生・高校生 (866人中732人の回答)		市民 (1,660人中833人の回答)	
	キーワード	件数	キーワード	件数
1	自然	132	自然	210
2	海	97	海	152
3	魚	94	港	98
4	山	72	川	98
5	公園	64	山	94
6	港	62	魚	69
7	祭	58	海岸	51
8	川	56	祭	50
9	田	46	文化	45
10	漁業	45	人	39

② 変えてほしいところ(悪いところ、嫌いなどころ)のキーワード

順位	中学生・高校生 (866人中708人の回答)		市民 (1,660人中880人の回答)	
	キーワード	件数	キーワード	件数
1	道路	172	道路	243
2	海	89	アクアス	86
3	ゴミ	74	店	67
4	店	65	交通	61
5	きれい	48	公園	52
6	公園	37	活気	50
7	アクアス	31	駅前	50
8	きたない	31	バス	48
9	遊	26	病院	46
10	買い物	23	商店街	38

VI. 今後の土地利用

1. 今後の土地利用の重点

市民(N=1,660)

「今後の土地利用において、どのような点に重点をおくべきだと思いますか」の設問に対し、

市民の70%以上が、「山地部と海岸沿いにある森林の整備、保全を図るべき」と思い、「良好な住宅地を増やすべきである」と思う市民は、半分の約35%でした。

今後の土地利用の優先順位については、3位までに選ばれた割合を比較した場合、同様の結果となりました。

また、優先順位の1番に選ばれた割合が最も高いのは、「商業地を増やし、生活の利便性を高めるべき」でした。

